

MUFGグリーンボンド期中報告（発行日2018年12月18日）

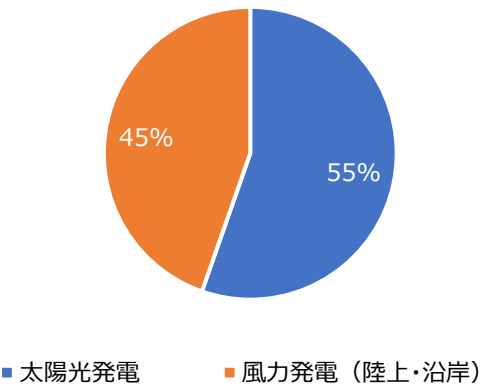
今回充当する適格カテゴリーについて

適格グリーンプロジェクト	
再生可能エネルギー	赤道原則※1に則り環境・社会影響レビューを実施し適合性を認定した※2再生可能エネルギープロジェクト（太陽熱発電、太陽光発電、風力発電）向け融資
	※1 大規模なプロジェクト開発に伴う環境・社会に対するリスクと影響を、資金の貸し手として、または資金調達に関するアドバイザーとして、借り手である顧客と協力して体系的に特定、評価し、管理するための国際的な民間金融機関のガイドラインのことです。 ※2 適合性の認定には、赤道原則における評価上、カテゴリーBまたはカテゴリーCに分類されることが必要となります。

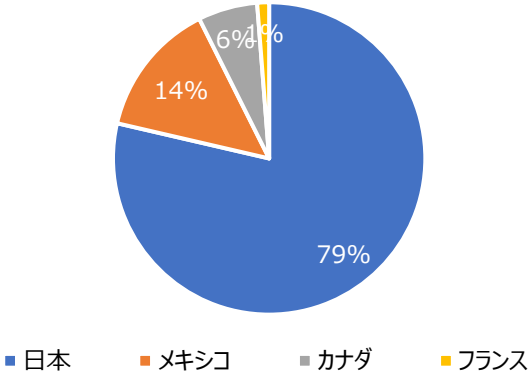
資金充当状況について（2025年3月末時点）

2018年12月発行のMUFGグリーンボンドの発行総額120百万米ドルの発行代わり金が充当されている適格グリーンプロジェクトの残高は120百万米ドル（16件）です。セクター別の割合は、太陽光55%、風力（陸上・沿岸）45%、地域別では、日本が最も多く、次いでメキシコ、カナダとなります。詳細は、下図セクター別及び地域別資金充当状況をご覧ください。なお、米ドル建て残高の算出においては、2025年3月末時点の為替相場を使用しています。

セクター別資金充当状況



地域別資金充当状況



環境インパクトについて（2025年3月末時点）

2018年12月発行のMUFGグリーンボンドの発行代わり金が充当されている適格グリーンプロジェクトによる環境インパクトは以下の通りです。

環境インパクト（再生可能エネルギー）

適格グリーンプロジェクトによる年間発電総量は2,831百万kWh、二酸化炭素排出削減効果の年間総量は142万トンです。その内、それぞれの適格グリーンプロジェクト向け融資に対する融資契約に基づく三菱UFJ銀行の融資割合をそれぞれのプロジェクトの二酸化炭素排出削減効果に乗じた量を合計した年間総量は49万トンとなります。年間発電量の算出においては、国際再生可能エネルギー機関（IRENA：International Renewable Energy Agency）が公表する平均的な稼働率を用い、以下の算式に従って算出しています。

$$\text{年間発電量 (kWh)} = \text{発電容量 (kW)} \times \text{年間総時間数 (h)} \times \text{平均稼働率 (\%)}$$

また、二酸化炭素排出削減効果の算出においては、国際金融公社（IFC：International Finance Corporation）が公表する平均的な排出係数を用いています。

$$\text{二酸化炭素排出削減効果} = \text{年間発電量 (kWh)} \times \text{CO}_2\text{排出係数 (gCO}_2\text{/kWh)}$$

分野	セクター	年間発電総量 (kWh)	二酸化炭素排出削減効果 (t-CO ₂ /年)
再生可能エネルギー	太陽光	1,804,478,532	909,457 (305,319)
	風力（陸上・沿岸）	1,027,006,632	517,611 (189,725)
合計		2,831,485,164	1,427,069 (495,044)

※ （）内の数字は三菱UFJ銀行寄与分

情報開示について（2019年6月実施）

2018年12月発行のMUFGグリーンボンドの資金充当については、オランダSustainalytics社による期中レポートを取得しています。また、当該資金充当状況については、MUFG最高財務責任者（CFO）によるマネジメント・アサーション（経営陣による表明）を実施しています。

（2025年6月現在）